

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

病害虫発生予察特殊報について（送付）
このことについて、発生予察特殊報第 1 号を発表しましたので送付します。

特 殊 報

平成 19 年度病害虫発生予察特殊報第 1 号

平成 19 年 10 月 16 日
熊本県病害虫防除所長

- 1 病害虫名：アワダチソウグンバイ (*Corythucha marmorata Uhler*)
- 2 発生植物：キク科植物
- 3 発生確認の経過

平成 19 年 9 月、県内の露地キク栽培ほ場において、葉にハダニ被害様の白斑を生じ、裏面がすす状となる被害と、加害種と思われる虫が寄生しているとの報告を受けた。また、同年 9 月に、アスター栽培ほ場において、グンバウムシと思われる虫が寄生しているとの報告があった。

現地を調査したところ、報告と同様の被害と加害種と思われるグンバウムシの一種を確認した。また、同種と考えられるグンバウムシは、県内ほぼ全域において、セイタカアワダチソウを中心としたキク科植物に寄生していることを確認した。

グンバウムシを採取し、門司植物防疫所鹿児島支所八代出張所に同定を依頼した結果、県内未確認であるアワダチソウグンバイであることが確認された。

- 4 被害

本種は、宿主植物の葉裏面に多く寄生（写真 1）し、吸汁により加害する。成虫は単独で、幼虫は密生して加害する場合が多い。被害葉は、ハダニによる吸汁被害と酷似したかすり状の白斑を生じる（写真 2）。さらに進行すると被害葉は白化または黄化し、やがて枯死に至る。

また、葉裏面には排泄物による、すす状の汚れ（写真 3）を生じる。

- 5 生態

成虫の体長は 3mm 程で、背面からの外観は軍配に似た形状をしている。前翅は半透明で、褐色の斑紋と周縁部に列生する小棘が特徴（写真 4）。

幼虫は紡錘形で、褐色～黒褐色を呈し、つやがあり、葉裏などに密生している。

他県での報告によると、成虫はセイタカアワダチソウで越冬し、5月～10月頃まで加害する。成虫発生のピークは7～8月である。

寄生植物として、キク、ヒマワリなどのキク科作物、セイタカアワダチソウなどのキク科雑草、サツマイモなどのヒルガオ科、ナス等が確認されている。

6 分布

本種は北米が原産で、国内では2000年4月に兵庫県西宮市で最初に確認された。その後、大阪府、滋賀県、三重県、京都府、徳島県、岐阜県、愛知県、香川県、岡山県、鳥取県、高知県、静岡県で発生が確認されており、今年新たに群馬県、島根県、山梨県、佐賀県、埼玉県で発生が報告があり、西日本に広く分布している。

県内では、ほぼ全域で分布を確認した。

7 防除対策

登録薬剤は、キクに対するコテツフロアブル2000倍（発生初期、2回以内）がある。

ほ場周辺において本種の発生源となる雑草は、刈取りによるほ場への飛び込み加害の影響がない栽培初期に除草する。栽培期間中は、宿主雑草を繁茂させないように努める。



写真1．葉裏面の成虫および幼虫



写真2．吸汁による白斑（葉表面）



写真3．排泄物によるすす状の汚れ



写真4．成虫

特殊報は、病害虫防除所のホームページ（<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto>）に公開。

問い合わせ先
熊本県農業研究センター
生産環境研究所 病害虫研究室
予察指導係（病害虫防除所）
担当：福永、山田
TEL：096-248-6490